

美和ダム再開発湖内堆砂対策施設モニタリング委員会（第4回）

議事要旨

日 時：平成 29 年 11 月 15 日（木） 10:00～12:00

場 所：ダイヤビル 2 号館 2 階 222 会議室

【議事】

1. 議事

- 1) 第 3 回委員会での指摘事項と対応方針
 - 2) 運用計画と試験運用計画
 - 3) 環境影響予測と事前・事後モニタリング計画
2. 今後の予定について

【議事要旨】

1. 第 3 回委員会での指摘事項と対応方針について

- 事務局説明 ■ 第 3 回の指摘事項と対応方針（案）について説明
主な意見等 ● 委員全員が了承

2. 運用計画と試験運用計画について

- 事務局説明 ■ 湖内堆砂対策施設の運用計画と、施設完成後に実施する試験運用計画について説明
- 主な意見等 ● 運用時に下流の濁水濃度が想定以上に上昇した場合の、ゲート操作についても考え方を整理・検討しておく必要がある
- 試験運用時は、結果に不確実性があることを前提として、濃度が高くなる操作を実施し、現象を把握することが重要である
 - 操作方法（ゲート開度と継続時間の関係）の机上検討では、提示した 2 山洪水のみならず、1 山洪水についても実施しておく必要がある
 - スtockヤードに投入する土砂は、毎年一定量を浚渫して投入した方が、効率的に施設が運用できると考える

3. 環境影響予測と事前・事後モニタリング計画について

- 事務局説明 ■ これまでの調査結果の概要と現段階における環境影響の予測結果、及びこれを踏まえた H30 年度以降の施設モニタリング調査及び環境モニタリング調査の計画について説明

- 主な意見等**
- 環境影響予測を行う上で考えるべき濁水現象の評価は、バックグラウンドの変化が前提となる。上流域に存在する斜面の安定化により発生する濁水濃度が低減傾向にある中で、ストックヤードの評価をどのように行うべきか考える必要がある
 - 自動濁度計による濁度観測をなるべく早期から開始し、ダム流入～放流～下流河川への流下による遅れ時間を含めた伝播の状況を把握することが重要である。
 - 建設中のストックヤード等の施設そのものに影響を与える可能性がある計画や調査内容については、重点を置いて検討すること

4. 今後の予定について

- 事務局説明** ■ 事務局より年度内に実施する第5回委員会の開催時期について説明
- 主な意見等** ● 第5回委員会の日程を平成30年3月14日です承

以上